

1. 皆さんの学び

何を仕事に選ぼうとも、どこに住むことになるとも、地球に限り
地球で起きていることを知る。最悪限でもそうすべきだと 自分に対して強く思いました。
科学が幸福のためになるのか、高校の倫理の授業で先生に問われて、なせんと、
大学では完全に理系系の学部に入ろうと思、こいたところを、とどまりました。

自分達が作る物かどのような事なのか
を正しくいかに知ればいいのか、自分達が何を勉強しているのかをしっかりと
確認し研鑽する必要があると思

自分
が無知だから、このようなことが起きてしまった。というのは、自分
が嫌な勉強から逃げているからだと考えた。

ビデオは何か人事では無い気がさせてくれるものがあると同時に「私は今更」、何も
知らない人だと思われ、情がこもります。自分の好きな分野だけやればよいのではない。
他人事では無い(人殺しの話とか)と先生がずっと私たちに伝えてくれたことが
とてもよく分かり、更に伝わり、理解が深、ビデオやCT。見せてくれてありがとう。ビデオは、
ラストメッセージ 湯川 秀樹 を見て、自分の好きなことだけを学ぶ
のは、危険だということに気がかされた。

好きだから、おもしろいから勉強する というのはちがうのだと気が
されまじい。自分たちが何をしていいるのか、どういう影響をおよぼして
いるのかを理解しないままどしていること、危険をおそろしいことだ
と思います。好きなことだけを見つめて誰かがやめてくれると頼り
ばかりではいけないと感じまじい。

今日の授業は、心にグッと刺さるような気持ちになった。2011年の福島原発で自分
は核という存在を再認識した。テレビなどで放送されている情報だけでは、全く足
りないことも感じた。

今日のビデオを見て、放射線についてもっと知
るべきだと思、たし、人は経験しない何物かからない生き物ではないかと感じた。

科学者たちが、自分かやしていることを完全にわか
ていなかったというエピソードを知り、ゾッとした。それが自分だらたらと思うと
こわい。

私達には知る権利があるので原発にしろ、遺伝子組み換え食品(5、5pんと
知る義務もあるのだと思、います。知らなければ同じ事が繰り返されてしまうから。

湯川さんのように核廃止を訴え続けた人がいたのに
なぜ現在の世界で核は無くならはいうだろう。私には解決策が
分かりません。今日物理学を学んとして、この授業をやらなければ
知らないうちに自分が、自分から知らないことや興、味のないこと
を知ることは大切だと気がした。

好きなことを勉強し、大規模な存在の科学者、に興味
あること、知識豊富な学生、の何が違うのか、という言葉に胸をつかれた。

わたしたちと物理学の授業を受取るについて、世界のことに興味が変わってきた。
もともと、政治・経済などの科目が好きで、興味があったが、物理と多少
関わりがあることを知り、もっと深く関心しようなことをしてみたいと思った。
もっと広い視野をもって2つともか活かせることを将来できたらと思う。

知がどうだから下すけれど、勉強とは楽しいものだ」と主張する人の何割かは、例えば「原発のような事は知っていて当然」という様に解しているのでは無いでしょうか。つまり、わざわざこれは勉強だと思わずとも、
然く知識を溜めろべき事項だと、「あつた」とはまる言い回しが「思ひか
なかつた」の下すが、そんなことかと、

1. 科学者

今般、戦争と科学を関連づけて考えたことはあまりなく、戦争は
国と国の問題だと思えていたが、実際は人を傷つけ、命を奪う
ものは、科学者がつくったものなのだと、思い複雑な気持ちに
なりました。

小学校の時、道徳の授業があごしくめんどうくさかたです。でも、
そのような授業がないと核の恐さを知らずに発明しちゃう
科学者が涙山出てきちゃうと思いました。

科学者は、自分が興味があることだけを勉強していて、実際に
核兵器がどんなにかいゝと手元していたのかなどを知らなかつたというは、
とても恐ろしいことだと思いました。もし書きたらとかいっぱいあるくらい、とても
心にのこるビデオでした。

1. 湯川秀樹

物理学の授業で、ドキュメンタリー系のビデオを見記は思っていないが、
しかし、内容は、核廃絶について湯川秀樹さんの活動記録だ。
科学者の探究心とその物事を知りたいと思う気持ちはとても素晴らしいもの
だと思ふ。しかし、科学者以前に人としての考えがしっかりと見られる
ポイントがあると思う。湯川さん本人としての考えがでてくるのは、

一番人間らしい湯川さんの考えを

解ってもらえず「孤独」だなんて同じ人間として悲しいです。自分の興味のあること、
目の前のことにしか目が向かなくなると、モラルも無くなってしまふのでしょうか。おはソカ
たい視野、考え方はいつの時代でも必要だと考えます。

湯川さんが本当に、平和を心かかるとんてした人物だ。
学ぶ楽しさ、学ぶおもしろさを感じました。

湯川秀樹が、こんなにも核廃絶運動をしていたことを初めて知りました。

科学者が、広島・長崎の映像を見た途端、核が危ない!!! と、ころと意見を
を変えたことには、驚きました。

小学・中学の教科書を思い出すと、湯川秀樹について「中間子論でノーベル
賞を取ったすごい人」としか載っていませんでした。後悔や苦悩の様子は
書かれていません。教科書に書いてあるのは一連の洗練だけであって、
勉強するのは受験突破のためだけではありませんか? 二人なものだから、
本質を知らないから、反省してすぐ繰り返す生き物に人間はなっているのでは
ないでしょうか。私もきとそうなんです。恐ろしいことです。

アップロビッツ収容所に収容されていた人達がビデオに残すということ。証拠を残すことが何よりも大事だなと思った。

私は「マスコビティア」という授業を取っていますが、先日その中で「報道のやり方」というものについてのアンケートをしました。アンケートの質問の中に「親子2人が流した映像が報道されたが、それはあまりにもひどい内容ではないのか」というものがありました。私は迷わず「思う」という答えをしてしまいました。今日の先生の講義の話を聞いて、「映像に残すことがどういふことなのか」ともっと考えなければ、と後悔しました。確かに人が波に流した映像はひどいものですが、それが新映像だから我々はその存在を知らずに生きることは不可能。

原発に強く反対したことはアホだった。理由は事故がなければ被害も無いし、原子力発電がなければ日本はもっと貧乏だと思っていたからだ。しかも、原子力の効率の悪さ、福島の大変さを改めて知り、止めるべきものだと思った。何うアホとは思えない。

私自身は原子力発電は賛成で、大抵はリスクを抱えてはいまが、

安全に使えるのであればとても役に立つと思っているからである。地元に発電所がないからそのような考えがでるのではと言われることもありますが、青森には六ヶ所村という所に核燃料の再処理工場があるのでリスクが全くないとは言えません。

1年生の時に大学のプログラムでNZに留学していた時に、日本の原発のニュースをNZのテレビで見たことを思い出しました。それは、昨年の放射性物質が海に流出してしまっている事を報じていたものでした。ホストマザーとそのテレビを見ていて、なんとかお申し訳なく感じた。

原発はコストがメリットがある故に政府は原発にこだわるようになりましたが、実際は全体の7%しか電カとして利用できないということに驚きました。放射線は遺伝子を傷つけ、ガン・癌に致らしめ、死なずとも体の構造を変えてしまうという恐ろしいデメリットがあるにも関わらず、原発を稼働させるというのはおかしいと思います。

私は原子力発電や原火薬についてあまり知識がなかったもので、今日の講義で色々学び、やっぱり木だけ核があふない物なのかなという事がわかりました。

大きなエネルギーになり、私たちの生活を豊かにするもので、使い方ひとつで大変な武器や害になるものを、私たちはよく知り、勉強して行かなければならないと考えました。